ウワサの保護者会　第 20 回「大丈夫！？子どもの外遊び」

Eテレ　木曜日　夜 10 時 25 分～10 時 49 分
土曜日　昼 12 時 00 分～12 時 24 分（再）

ウワサの保護者会！　本日のテーマは、「大丈夫！？子どもの外遊び」

【今回のホゴシャーズ】

アロエ	（母）	：長女・小４
マリモ	（母）	：長男・小５/次男・小１
トウガラシ	（母）	：長女・小５
パンダ	（母）	：長女・中２/長男・小６
金のなる木	（母）	：長男・小６/次男・小４
うめ	（父）	：長女・小２/長男・年少

高山　：さあ、尾木ママ！今日は子どもの外遊びについてです。
外遊びというと、尾木ママはどんな思い出がありますか？

尾木　：僕の思い出はね、僕が生まれた所が滋賀県の伊吹村っていう、山村だったんですよ。本当に山の中。“チャンバラごっこ”とか“ターザンごっこ”とか。木のつるでビューンと、向こうの木まで渡ったりとか、そういうのが得意だったの。

高山　：我々の世代もそうなんですけれど、かつては外で遊んだ記憶、経験っていうのが結構あると思うんですけれど、今の子どもたちは外遊びをしたくてもできないという、事情があるみたいなんですよね。子どもたちの声というのを聞いてきましたので、こちらをご覧ください。

公園や、広場で鬼ごっこ！
元気に外で走り回る子どもの姿は、見ていて気持ちがいいもの！
しかし、今、子どもの外遊びに異変が！？
街の子どもたちに聞いてみた。

Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。

小５男子：「楽しい場所とかない。ホントない」

小５女子：「遊ぶとしても、かくれんぼとか、ブランコとか地味な遊び」

小５男子：「同じ場所しかないからつまんない。何年もいると遊び飽きちゃう」

遊ぶ場所がない！

小３男子：「いつもは児童館が開いているから、そこでゲームをやる」

小３男子：「家に帰ったらずっとゲームやっています。ゲームはね、進めるのが楽しい」

外遊びよりゲーム！

小４男子：「(外遊び) 好きだよ。元気っていうか、栄養を作る。今日は遊べない。塾があるから。ホントめんどくさい。」

遊びたいけど、習い事で忙しい！

意外と遊べていない今どきの子どもたち。
このままで大丈夫！？

NHK Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。

パンダ：うちの息子はそうですね。
高山　：そうですか（笑）
パンダ：家のリビングで、友だちみんなで築地のマグロみたいにゴロゴロと、携帯ゲームをしていて。
ゲームの方が楽しいだろうなっていうのもあるし。
このままじゃまずいよねって思うこともあるし。
うめ　：住宅街があって、袋小路の道になっているんですね。その狭い範囲だと、遊びの内容が限られちゃって。結局、日によってゲームをやっているときもありますね。
高山　：「忙しいという」子どもの、意見もありましたけれど。
金のなる木：うちは、兄の友だちが習い事とかで結構忙しくて、「遊ぼうよ」って誘っても「今日は習い事だから無理」っていう。

金のなる木さんの長男、げんきくんの放課後。
この日は、塾がお休み。帰宅するやパソコンで見始めたのは野球の動画！
さらに携帯電話でゲーム。

げんきくん、友だちと一緒に遊ばないの～？

げんき：「（友だちと）集まることがない。外で遊べたら遊びたい」

金のなる木：自分が遊びたくても、相手がいないみたいな感じで、結局遊べない。遊びたいだろうけれど、みんなの事情とかもあって、遊べなかったり。
パンダ：学校から帰ってくると４時。
５時から習い事に行くので、１時間しかないので、そんなに遊べません。
高山　：全国の視聴者の皆さんに、アンケートを取ったところ、やっぱり遊ばせたくても遊ばせることができないという意見が、多数寄せられたんです。
マリモ：うちの子が、珍しく夕方に外で走り回って鬼ごっこをしていて、「珍しい！いいな」と思って、家に入って洗濯物をたたんでいたら、「ワーーー」って怒鳴り合いが聞こえてきて。見たら、どうもうちの子がそこのお家の敷地にちょっと入っちゃったみたいなんだけれど、そのお宅の方が誤解をされて、違う子のお家にクレームを入れて、そこ同士でケンカになっちゃって。
どうしようと思って、あとで、謝りに行ったんですけれど、その前にも「声がうるさい」って注意をされていて。息子は「俺たち、黙って鬼ごっこしていたのにさ…」って。
尾木　：クレームっていうのは、難しいのよね。
パンダ：それが怖くて、うちはもう絶対家の近所で遊ばせないって思ったんですよ。だから、家の近所から追い出すしかなくって。
尾木　：高齢者の方にとっては、子どものトーンの高い声が身体的によくないということが、今わかっているんです。だから、お互いを尊重し合って、理解し合えるといいと思いますよ。

NHK Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。

金のなる木：そういう話ができれば、ちょっとね、扉が開くかな…。

トウガラシ：うちの辺りは、不審者の情報が結構多くて。多いときは、週１回とか、毎日とか。露出の人とか、あとは“抱きつき”っていうのも。どんな情報であっても、「うわっ」と思って、「ちょっと１人で行くのやめて」とか、「ちょっと待って」という感じで。

パンダ：「ナタを持った男が、道端に立っていた」っていう不審者情報がきたんですけれど、ふたを開けてみたら救急車が通ったから、農作業をしていた人が「何かな」って見た瞬間だった（笑）

うめ　：昔、よく写真を撮っているおじさんとかいましたけれどね。今はそれも、不審者なんですね。

マリモ：だから今は、うちの子が学校でサッカーの練習しているんですけれど、外で写真を撮っている人がいたら必ず声かけをしていて。「もし御家族でしたら中へどうぞ」って言うと「あっ」って帰るっていう。

アロエ：運動会とかも、入って来ちゃうといけないから。

高山　：そうやって声をかけ合って、安全な人・危ない人を、ふるいにかけていくと。みんなやっていらっしゃるんですね。

トウガラシ：あとは、やっぱりボールしちゃダメとか、走っちゃダメとか、いっぱい「ダメ、ダメ、ダメ」っていう看板がドーンと貼ってある。

トウガラシさんをさらに悩ますのは、公園で必ず目にする禁止看板や注意事項。
場所によってルールは様々だ。

高山　：こちらは関東の、とある公園にある看板を用意しました。これが、結構衝撃なんですよね。
“おちるぞ！”“ころぶぞ！”“遊ぶときはすべりにくいくつをはき、足元に注意しましょう。”
“ぶつかるぞ！”　“いきおいよく走ったり、よそ見をして遊ぶのをやめましょう。”
“よいこのやくそく”もあるんですね。
“ふざけて遊んではいけません”これはちょっと、解釈が難しいですね。

トウガラシ：どこでふざければいいの？

高山　：そうですね。「ココだろ！」っていう場所ですけどね。

金のなる木：“野球がダメです”とか、“サッカーがダメです”とかいう表示もこういう看板であって。

高山　：ボール遊びね。

NHK Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。

金のなる木：ダメですって書いてあると、息子が「野球できないよね…」みたいな。

高山　：どこでやればいいんだろう、っていうふうになっちゃいますね。

尾木　：これは、遊びの中で身につく運動能力ばっかりが禁止されているんですよ。転ばなきゃわかんないでしょ。落ちなきゃわかんないし、ぶつかって、「ああ、本当に夢中になって走っているとぶつかるわ」とかね。これ、全部学習ですよ。

うめ　：行政が、これ全部クレームとしてきちゃっているから、クレームをなくすために、条件として設けているんでしょうね。
もう、どんどん増えちゃうでしょうね。

高山　：トウガラシさんは、悩んで悩んで悩んだ挙句、結局こんなふうにして娘さんを遊ばせています。

高山　：はい、夜の公園で遊ぶ！

尾木　：えー、うそ。

トウガラシ：娘が星を見るのが好きなので、星を見るのも兼ねて公園に行って、星を散々見たあとに、ブランコ乗っていくかって言って、「月までイエーイ」っていう。

今や、公園で遊ぶことすらままならない子どもたちの外遊び。

一方、アロエさんの長女は、涙ぐましい頑張りを見せているという。
アロエさんのお宅を訪ねた。
小学４年生のまりかちゃんは外遊びが大好き！
学校が終わり、家に帰ってきたのは午後４時。

Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。

本当はすぐにでも遊びたい！しかし、始めたのは勉強！

まりか：すぐ宿題やっている。（宿題を）やる時間は決めている。

まりかちゃんの１週間は、学習塾やピアノ、水泳に体操と大忙し！

この日の習いごとは塾。午後５時には、家を出なくてはならない！

まりか：遊びたいから、何分までに、宿題を終わらせようとか決めている。

なんと！塾までに宿題を終わらせ、余った時間を外遊びにあてようというのだ！
宿題が終わったのは午後４時半、急いで向かったのは・・・家から一番近い公園。
時間に追われながらも、外遊びの時間をなんとか３０分作った。

なんで、そこまでして遊びたいの？

まりか：元気パワーの充電。家でゴロゴロしても充電にならなくて、公園とかで、みんなで鬼ごっことかブランコをやったほうが、同じ時間でもいっぱいの充電になるから楽しい。

まりか：バイバイ！
（まりかちゃん帰宅して、塾に向かう）
まりか：行ってきます！

NHK Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。

Eテレ　木曜日　夜 10 時 25 分～10 時 49 分
土曜日　昼 12 時 00 分～12 時 24 分（再）

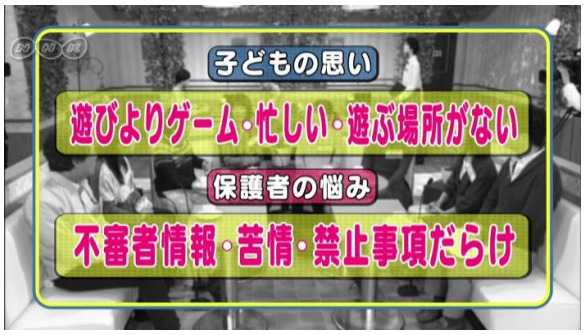
遊びたいけど習いごとにも行きたい。
忙しい現代っ子なりの外遊びの１コマだ。

マリモ：私、涙出そうになりますもん。けなげだなって。ねえ、（塾に行くまでの）その短い時間に、公園に集まってワイワイやっていて。

アロエ：遊んで帰ってきたとき、顔つきが違う。

尾木　：本来的に言えば、小さな公園ではなくて、野原みたいな所、あの公園の裏が山だとかね。そういう所に放ってあげて、自由にやれば１００％が創造性の世界でしょ。虫を探してみたり、それから草でいろんな編み物したり。未知との遭遇っていうのが、生きる力になってくるのね。塾でやる科目とか、教わっている体操教室の、その部分は確かに成長するの。けれども、外遊びをして原体験をいっぱい積むほうが、地頭って言われる前頭前野っていうところが鍛えられるの。だからね、科学的にも非常に外遊びは大事なんです。

外遊びは、生きる力を育む！と明言する尾木ママ。
しかし、子どもたちの外遊びを取り巻く問題は山積み！



一体どうすればいの～！？

高山　：この地図なんですけど、ご覧いただきたいと思います。0
１９９０年代の東京都新宿区歌舞伎町です。

これは、「遊びの地図」

Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。

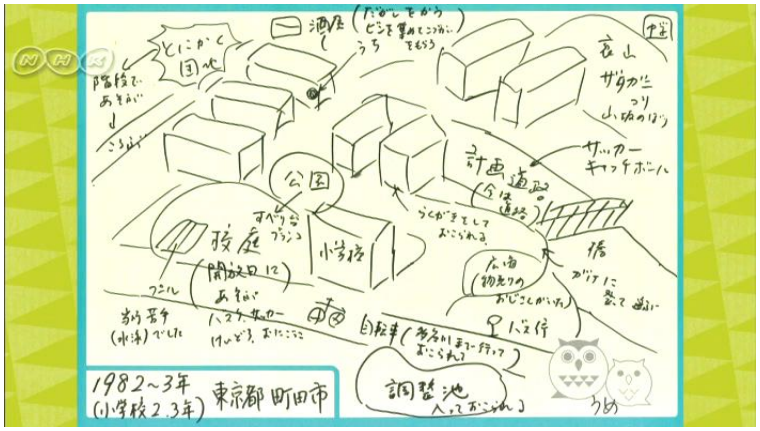
Eテレ　木曜日　夜 10 時 25 分～10 時 49 分
土曜日　昼 12 時 00 分～12 時 24 分（再）

９０年代、当時小学３年生だった男性が、自分がしていた外遊びを書き込んだもの。
鬼ごっこや缶けり。皆さんも子ども時代の外遊びをちょっと思い出してみませんか？

高山　：蜜を吸うって書いてあるんで、たぶん花壇で…。
尾木　：花壇でなんかの密を吸っていた（笑）
マリモ：ツツジとかね。
高山　：そうですね、ツツジの蜜を吸っていた。
うめ　：なつかしいですね。
尾木　：なつかしい。

ここでスタジオのホゴシャ～ズも、小学生時代を思い出し、遊びの地図作りに挑戦！

尾木　：結構、みんな遊んでいるね。僕が働いているときに「ああ、近所の子どもたち」って思って見ていたのが、ここにおられる人だっていうのが、すごくわかってきた。この年代見ていると。
高山　：じゃあ、見せていただきましょう！うめさん。



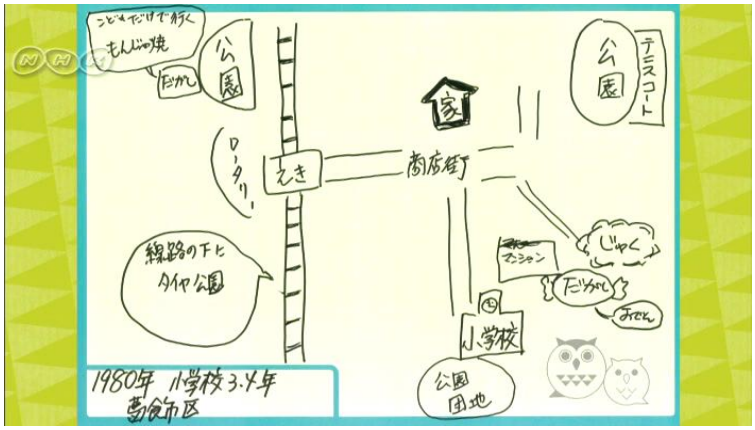
うめ　：団地です。公団団地に住んでいて、５階建てでエレベーターがなかったんで、とにかくもう階段で上り下りして遊んだり、落っこちて転んで、なんていう遊びをしたり。団地の中で落書きをして怒られて…。自転車が大好きだったんで、２０キロ離れたところに行って、帰りが夜遅くなって、ものすごく怒られたこともあります。

Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。

他にも、池に入ったりと、うめさんの外遊びは怒られてばかり。

うめ　：“雷おやじ”みたいなのもいましたけど、大体そういうのはね、逃げ道があって。まあ、今みたいにクレームじゃなく、その場で怒られただけなんで。

高山　：じゃあ、アロエさんいってみましょう。



アロエ：１９８０年頃ですけども、小学校３年生から４年生くらいで。

塾に通っていたアロエさんの少女時代。

駅から先は、子ども同士で行ってはいけない場所！

しかし、親に内緒で行ったときに発見したのは・・・

アロエ：公園の奥に駄菓子屋があって、もんじゃ焼きが名物で、子どもだけなのに、５０円とかでもんじゃ焼きを食べたりとか、冬場にやっていました。

尾木　：行っちゃ行けないと言われている所へ、行きたくなるし、行っちゃいけないと言われると、「じゃあ、そこに何があるんだろう」と思うわけでしょ。

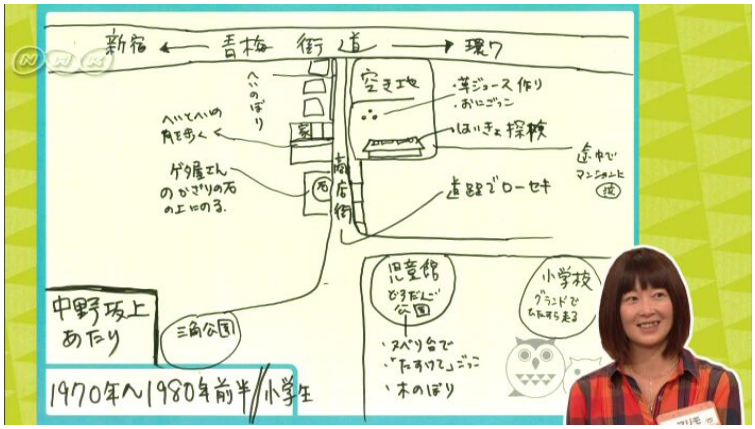
金のなる木：ダメって言われてること、やっているよね。

アロエ：でも、大体、父の知り合いとか誰かが見ていて、「早く帰れよ」とかって。

高山　：親は、行くこと、わかっているんですね。

アロエ：そうそう、行くのをわかっているんですよね。大人は、みんなね。

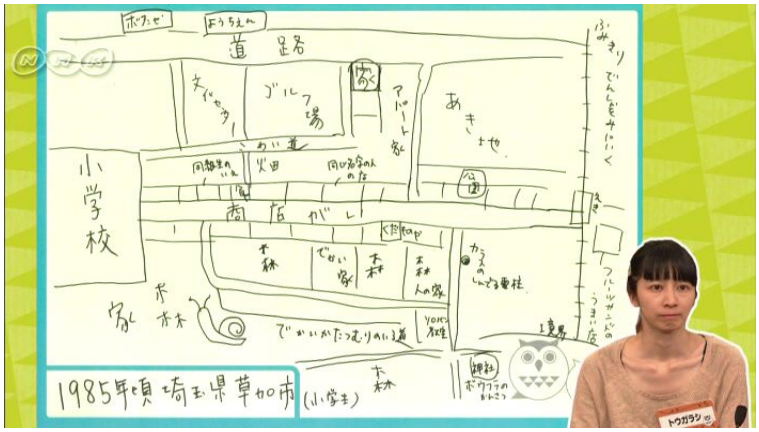
マリモさんの遊び場は塀に囲まれた商店街。



NHK Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。

マリモ：生まれたときから、近所の人が私を知っているので、１人で歩いても、「あれどこ行くの？」って、「ああ、公園」みたいな地域だったので。まあ、塀に登っていても、たまに危ないよって言われることもあるし、言われなきゃ登っていて。あと、家と家の隙間のすごく狭いところを、カニのように入っていって、どれだけ入れるかとか（笑）

娘を夜の公園で遊ばせているトウガラシさんの子ども時代は？



トウガラシ：大きい家が近くにあったんですけど、廃墟だっていう話になっていて。
あの、廃墟じゃないんです。人が住んでいるんですけど。

尾木　：失礼な（笑）

トウガラシ：みんなで「廃墟だ！」って言って入って、人の気配がすると「わあー、おばけー」みたいな感じで、逃げていた（笑）

マリモ：失礼だ（笑）

高山　：住んでいらっしゃる方なんですよね？ずいぶんなこと、やっていますね。

トウガラシ：あと、そろばん教室の近くにザクロが生えていて、落ちているものを食べていました。その家の人も知っているんですよ。でも、お腹空いていたし、おいしいから食べていました。

高山　：でも、みおちゃん（娘）に同じことをさせたいですか、させたくないですか？

トウガラシ：ちょっと、やってほしくないことばっかり…（笑）

尾木　：塀に登ったりとかね、人の家を勝手にお化け屋敷に仕立ててしまって忍び込んだりとか、なんかいつもね、ワクワク、未知との遭遇なんですよ。

金のなる木：スリルがあるんですよね。自分たちで何かを達成すると、すごい満足感みたいな。

尾木　：そう。それからもう１つ、大きな特徴が、近所の人がみんな見ていたでしょ。「早く帰りな」とか、自然にできていたんですよね。８０年代９０年代までくらいかな。
それが、今すっかり急速になくなっているっていうのは、ちょっと考え直したほうがいいと思う。だから、われわれ親の世代からですね。自分の子ども時代の絵を描いてわかりましたから、復活させるべきものは復活させるっていうのをね、努力したほうがいいと思うわね。

NHK Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。

Eテレ　木曜日　夜 10 時 25 分～10 時 49 分
土曜日　昼 12 時 00 分～12 時 24 分（再）

高山　：マリモさんのお子さんはですね、ある面白い場所というのを見つけて、それにマリモさんは一生懸命今エールを送ってらっしゃるということです。

マリモさんの長男タイガくんと次男のライトくん。
学校が終わり、２人が向かったのは家の最寄り駅だ。
遊び友だちと電車に乗り、３駅先で下車。
やってきたのは、タイガくんたちお気に入りの遊び場。

なにして遊んでいるの？
子ども全員：アリ地獄！

ここは、東京・世田谷区にある羽根木プレーパーク。

Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。

区の事業で、プレーワーカーと呼ばれるスタッフと地域住民が運営。
“自分の責任で自由に遊ぶ”をモットーに作られた禁止事項のない遊び場だ。
ここでは、物置や建物の屋根も恰好の遊具！

タイガ：危ないことだったら注意されるけど、そこまで危険じゃなかったら注意もされないし。
でも、怖かったらやめるし、危ないなって自分で思ったらやめるし、考えて行動できる。自由があるから楽しい。

タイガくんなにやら、木を取り出した。

友だち：タイガ何しているの？
タイガ：（木材を）小さくして、たき木。火がつきやすいように。
（タイガくん、木材をノコギリで切る）

え！？子どもだけで、たき火するの？

タイガ：これを起点にして、ココとココが空気穴！
（タイガくん、木材を積む）
タイガ：きた！

なんと磨きのかかった技で、いとも簡単に着火！
マシュマロとウィンナーの炭火焼きだ。これが絶品なんだとか。

ライト：おいしい。

しばらくすると、マリモさんもやってきた。

マリモ：おいしそーう！

Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。

実はこの場所を見つけたのは、マリモさん。
５年前までは、子どもの遊ばせ方で悩んでいた。

マリモ：葉っぱを見たらむしってみたいとか、水道があったらずっと出してみたい、っていう子だったんですけど、それを公園とかでやっていると、つい注意しちゃって、「やめなさい、やめなさい」って。小さいときに言わなければいけないことが、言いながら苦しかった。この子を、本当に思い切り遊ばせたいとずっと思っていた。

そんなとき、知り合いのお母さんに紹介されたのがプレーパーク。
今では近隣への声かけなど、運営のお手伝いをするまでになり、子どもたちの遊び場に一役かっているのだ。
「やめなさい」のない遊び場からは、いつも新しい遊びが生まれ、子どもたちの笑顔であふれている。

マリモ：子育てもすごく楽になって、すごくいい顔で泥だらけで帰ってくるので、私は洗濯だけ頑張ればいい感じです。

うめ　：何も注意しないんですか？つい、親の見ている立場だと、「まだ大丈夫かな」ってところの手前で注意してしまうときがあって。
マリモ：まず、子どもがやってみたくて、工夫していく姿見守るっていう。
どういうことをしたら危ないか、子ども自身が考えて、周りの大人はギリギリまで見守るっていうことをして、子どもは周りの子を見たりして考える。
パンダ：見て学ぶっていうの、大きいですよね。
マリモ：最近、どこのお稽古に行っても、先に教えてくれる人がいるから、初めて来た子は「どうするんですか？火、どうやっておこすんですか？」って、聞くんですよ。
「どうだろうね」って答えて…。
尾木　：教えないんだ！
マリモ：「どうだろう？新聞紙はあそこ、うちわはあそこだよ！」って。
尾木　：教えてくれないから、自分で工夫して失敗したり、ときには痛い思いをしたりしながら、学んでいくってことがすごく大事だと思う。
高山　：“感じる”っていうことですね。
でも、火をつければ煙も出ますし、あれだけ「ワー、キャー」言われると、相当な騒音にも繋がると思うんですけれど。
マリモ：常に、近所の人が子どものためだと思って、我慢もしてくださっているので、なるべくコミュニケーションを取るようにご挨拶に行ったり。そのときに、「ちょっと音が…」とかって言われたりすると、子どもがやりたいことができるところはどの辺かというのを相談するのが大人の仕事かなと思っていて。

NHK Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。

Eテレ　木曜日　夜 10 時 25 分～10 時 49 分
土曜日　昼 12 時 00 分～12 時 24 分（再）

パンダ：そうすると、地域力にもなっていきますよね。

尾木　：やっぱり、社会全体の方が子どもにとっての“遊びの意義”っていう、それは心の問題も頭の問題も、体の問題もそうですけどね、不可欠だっていうことを、あんまりわかってないんじゃないかっていう気がするわね。
僕は今日のお話を聞く前は、ゲームにハマっちゃう方が悪いくらいに思っていたの。公園にまで行って、遊ばないで、それぞれがゲームやっているっていうの、揶揄して言っていたんですよ。だけども、そうじゃないわ。そこへ、追い詰めているような、私たちの環境があるんだっていうふうに考えるようになりましたね。

高山　：同志を見つけるっていうのもいいですね。同じ気持ちを持っている人を。

マリモ：「楽しそうじゃない？」とかって誘うと、「いいね」って外遊びにちょっと興味があるお母さんも探せばいる！

尾木　：なるほどね、いい考えだわ。

外遊びはワクワクの連続「未知との遭遇」今の子どもたちには、見守る目が必要なんですね？
皆さんならどうしますか？

皆さんの意見や体験談、「ウワサの保護者会」番組ホームページまでぜひお寄せ下さい！

（終）

Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。